

## II 調査結果の概要

### 1 国語

#### 全体的な傾向

- ・ 国語A（知識）の平均正答率は全国平均及び市の平均よりやや高く、正答数の分布状況は32問、33問正答（正答率約97%～100%）の割合が高い。
- ・ 国語B（活用）の平均正答率は全国平均よりやや高く、正答数の分布状況は、11問正答（正答率100%）の割合が高い一方、1問、2問（正答率約9%～18%）の割合も高い。

#### <分類・区分別集計結果>

##### 【国語A】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	4	89.2	88.8	86.8
	書くこと	3	66.7	68.1	64.6
	読むこと	10	77.7	77.1	75.7
	言語事項	17	77.4	76.7	76.0
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0			
	話す・聞く能力	4	89.2	88.8	86.8
	書く能力	3	66.7	68.1	64.6
	読む能力	10	77.7	77.1	75.7
	言語についての知識・理解・技能	17	77.4	76.7	76.0
問題形式	選択式	19	78.5	77.9	76.0
	短答式	14	78.6	78.4	78.4
	記述式	0			

##### 【国語B】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	0			
	書くこと	5	72.4	74.5	72.5
	読むこと	11	74.9	76.5	74.5
	言語事項	0			
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	72.9	73.1	70.8
	話す・聞く能力	0			
	書く能力	5	74.9	74.5	72.5
	読む能力	11		76.5	74.5
	言語についての知識・理解・技能	0			
問題形式	選択式	3	71.8	72.3	70.2
	短答式	3	81.5	83.9	82.0
	記述式	5	72.8	74.5	72.5

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

## 【話すこと・聞くこと】

- A 領域の平均正答率は、89.2%で他の領域と比較して高く、全国平均より 2.4 ポイント高い。特に効果的なスピーチをするために話し方の工夫をする設問の正答率は、全国平均より 5.0 ポイント高い。

## 【書くこと】

- A 領域の平均正答率は 66.7%で他の領域と比較して低いが、全国平均より 2.4 ポイント高い。特に、主語に対応させて述語を適切に書く設問の平均正答率は、57.7%で、全国平均より 7.9 ポイント高い。
- A 上記の設問の正答率は、この領域で最も低く、文章を書く際に、主語と述語を適切に対応させて書くことに課題がある。
- B 領域の平均正答率は 72.8%で、全国平均より 0.3 ポイント高い。特に、資料に表れている工夫を生かして自分の表現に役立て、見出しを書く設問の正答率は 63.6%で、全国平均より 4.5 ポイント高い。

## 【読むこと】

- A 領域の平均正答率は 77.7%で全国平均より 2.0 ポイント高い。特に本文の展開に即して内容をとらえる設問の正答率は 92.0%で、全国平均より 2.5 ポイント高い。
- B 領域の平均正答率は 74.9%で全国平均より 0.4 ポイント高い。特に文章と補助資料とのかかわりを理解する設問の平均正答率は 66.4%で、全国平均より 2.4 ポイント高い。

## 【言語事項】

- A 領域の平均正答率は 77.4%で全国平均より 1.4 ポイント高い。漢字の読み書きに関する 6 問の平均正答率は 80.2%で、全国平均より 1.6 ポイント低い。また、漢字の書きは無解答率が 16%を超え、正答率の差がはっきりしている。
- A 適切な接続詞を選択する設問の正答率はこの領域で最も高く、91.1%である。

## 【その他】

- B 資料に表れている工夫を自分の表現に役立てる設問の平均正答率は 71.8%で、全国平均より 3.5 ポイント高い。

【生徒質問紙調査】

※ 生徒質問紙調査の質問 77 問から、国語に関する質問を取り上げ、傾向と調査結果を示した。

≪傾向≫

- 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と回答した生徒の割合は、83.5%で、全国平均より5.1ポイント高い。
- 「国語の勉強が好き」「国語の勉強は大切」「国語の授業がよく分かる」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と回答した生徒の割合が、昨年と比較して特に増加している。
- 「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている」と回答した生徒の割合は、48.8%で、全国平均より及び昨年度と比べ低くなっている。

〈全国平均・昨年度との比較〉

主な質問内容	肯定的回答の割合		
	本校	全国平均との差	昨年度との差
「国語の勉強は好きですか」	55.9%	△0.8	3.0
「国語の勉強は大切だと思いますか」	90.1%	2.5	5.1
「国語の授業の内容はよく分かりますか」	70.4%	1.6	9.2
「読書は好きですか」	70.9%	3.5	2.2
「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」	83.5%	5.1	3.8
「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」	47.9%	6.2	△1.4
「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか」	39.5%	0.3	△0.2
「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか」	48.8%	△6.2	△4.1
「国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめごとに内容を理解しながら読んでいますか」	60.5%	△0.2	0.1

## 指導改善のポイント

### 【話すこと・聞くこと】

- ・スピーチの指導において、話をする場所の広さ、聞き手の人数、聞き手の立場などを確認させ、それらにふさわしい話し方を考えさせる学習内容を工夫し、聞き手の反応を意識して話すようにさせる。
- ・授業だけでなく、日常においても、共通のテーマを設定し、その内容について生徒同士で話し合う機会や意見交換する機会を数多く設定し、相手の意見を尊重しながら自分の考えを深めていくことを多く経験させていく。

### 【書くこと】

- ・文章を書く際には常に、主語に対して述語が適切であるかどうかを意識して記述させ、推敲の場面においても確認するよう指導する。
- ・読み手を想定して意見や感想を書かせるなど、実際の生活の場で生きるような工夫をした言語活動を通して、相手や目的に合わせ伝えたいことや自分の考えなどを的確に書かせる。
- ・書くことへの抵抗感を持つ生徒を減らすため、他の領域と関連を図りながら、書くことの活動を多く設定して指導の充実を図る。

### 【読むこと】

- ・教材文はもとより科学的な内容を扱った文章などを様々な文章を読む機会を数多く設け、共通点や相違点を比較したり、文章を相互に評価したりしながら読む習慣を付ける。
- ・それぞれの段落の役割をとらえさせ、重要と思わせる部分を列挙させるなどした上で、取り出した情報が適切なものか考えさせたり、同じような内容のものをまとめさせたりするようにする。

### 【言語事項】

- ・漢字の指導においては、単に書かせるだけでなく、漢字の画数や、点画の一つ一つを意識するなどの基本的な事項を確実にする必要がある。また、日常の様々な機会をとらえ、漢和辞典などを活用して漢字を用いた語彙を広げる指導を工夫する。
- ・学習した漢字や熟語を、文脈の中で適切に読み書きできるようにするとともに、部首に着目したり、同じ漢字を用いた他の語句と関連させたりするなど、漢字についての理解を深める工夫を図る。
- ・書写の指導では、毛筆で書くことを通して字形や画数など行書の特徴や文字の配列・配置についての理解の充実を図る。

### 【その他】

- ・授業で学習したことが定着し生活に生かせるよう、家庭学習の継続的な実施や習慣づけを図るために適切な質と量の課題を与えるとともに、発展的な読書指導を行う。
- ・今後配置させるデジタルテレビ等を使って資料や生徒のノート・作品を拡大表示するなど、デジタル教材やコンピュータの活用を努める。

## 2 数学

### 全体的な傾向

- ・ 数学A（知識）の平均正答率は全国平均及び市の平均よりやや高く、正答数の分布状況は全国と比べ、特に25問、26問正答（正答率約76～79%）の割合が高い。
- ・ 数学B（活用）の平均正答率は全国平均及び市の平均よりやや低く、正答率の分布状況は全国と比べ、10問～12問正答（正答率約67～80%）の割合と4問～6問（正答率約27%～40%）の割合が高く2極化の傾向が見られる。

### <分類・区別集計結果>

#### 【数学A】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	数と式	11	67.6	67.7	67.3
	図形	11	65.7	66.7	64.6
	数量関係	11	59.5	57.7	56.2
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	0			
	数学的な表現・処理	9	64.4	64.5	63.7
	数量・図形についての知識・理解	24	64.2	63.9	62.3
問題形式	選択式	20	62.9	62.3	60.5
	短答式	13	66.4	66.7	66.1
	記述式	0			

#### 【数学B】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	数と式	3	58.5	63.0	61.4
	図形	6	59.4	59.3	57.5
	数量関係	6	52.0	54.7	54.1
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	12	51.6	53.7	52.4
	数学的な表現・処理	2	70.3	71.0	70.1
	数量・図形についての知識・理解	1	83.5	86.4	85.3
問題形式	選択式	6	59.5	63.3	61.6
	短答式	4	71.7	71.1	70.3
	記述式	5	39.9	41.7	40.6

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

## 【数と式】

- A 領域の平均正答率は67.6%で他の領域と比較して高く、全国平均より0.3ポイント高い。特に、指数の計算の仕方を理解しているかをみる設問の正答率は、全国平均より5.5ポイント高い。
- A 等式 $S=1/2ah$ を $a$ について解く設問の平均正答率は、40.8%であるが、全国平均より3.7ポイント低く、無回答率が20.2%である。具体的な場面で、等式を目的に応じて変形することに課題がある。
- B 領域の平均正答率は、58.5%で、全国平均より2.9ポイント低い。

## 【図形】

- A 領域の平均正答率は65.7%で全国平均より1.1ポイント高い。特に、折り目の線について正しい作図を選ぶ設問の平均正答率は50.7%で、全国平均より6.3ポイント高い。
- A 三角形の内角の和が $180^\circ$ であることの証明について正しいものを選ぶ設問の平均正答率は27.7%で、数学Aの設問の中で最も低く、全国平均より1.2ポイント低い。証明の意義の理解に課題がある。
- B 領域の平均正答率は59.4%で全国平均より1.9ポイント高い。

## 【数量関係】

- A 領域の平均正答率は59.5%で他の領域と比較して低いが、全国平均より3.3ポイント高い。特に大小2つのさいころを同時に投げるとき、和が7になる確率を求める設問の平均正答率は70.0%で、全国平均より12.9ポイント高い。
- A (2, 3)の位置を座標平面上に示す設問の平均正答率は71.8%で、全国平均より5.3ポイント低い。座標平面上に点の位置を示すことに課題がある。
- B 領域の平均正答率は52.0%で、他の領域と比較して低く、全国平均より2.1ポイント低い。特に、蛍光灯と白熱電球の総費用について、2つの総費用が等しくなるおよその時間を求める方法を説明する設問の正答率は11.8%で、数学の設問の中で最も低く、全国平均より7.3ポイント低い。無回答率も54.7%であり、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

## 【その他】

- B 問題形式別に見ると、記述式の設問の平均正答率が39.9%であり、全国の状況と同様、選択式・短答式に比べて約20ポイント以上低く、自分の考えを説明することに課題がある。

【生徒質問紙調査】

※ 生徒質問紙調査の質問 77 問から、国語に関する質問を取り上げ、傾向と調査結果を示した。

《傾向》

- 「数学の授業がよく分かる」と回答した生徒の割合は 72.7%で、全国平均及び昨年度より特に高い。
- 数学に関するすべての質問において、肯定的な回答の割合が、昨年度と比較して高い。
- 「数学の勉強が好き」と回答した生徒の割合は、44.1%で、全国平均より 8.4 ポイント低い。

〈全国平均・昨年度との比較〉

主な質問内容	肯定的回答の割合		
	本校	全国平均との差	昨年度との差
「数学の勉強は好きですか」	44.1	△8.4	4.9
「数学の勉強は大切だと思いますか」	76.0	△1.5	8.6
「数学の授業の内容はよく分かりますか」	72.7	7.9	12.4
「数学ができるようになりたいと思いますか」	91.1	△0.3	8.7
「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」	65.3	0.6	10.2
「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」	34.2	△0.1	5.1
「数学で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」	67.1	2.0	5.8
「数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」	55.8	△7.7	0.3
「数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか」	64.3	△1.3	3.9
「数学の授業で問題の解き方が分かるようにノートに書いていますか」	82.6	△6.0	3.7

## 指導改善のポイント

### 【数と式】

- ・ 基本的な計算の確実な定着を図るために、例えば、誤りのある計算例を取り上げ、計算手順を確実にした上でその誤りを直すなど、引き続き、よく見られるつまずきの解消を目指した指導の徹底を図る。

### 【図形】

- ・ 帰納的な方法による説明と演繹的な推論による証明との違いに着目して、証明の意義を理解する活動の一層の充実を図る。
- ・ 日常的な事象を図形に着目して観察したり、紙や模型などを実際に操作したりする活動を取り入れることにより、事象の持つ図形的な特徴を的確に捉え、数学的な表現を用いて説明できるよう指導の充実を図る。

### 【数量関係】

- ・ 二元一次方程式の解の集合が直線になることを理解できるよう、二元一次方程式のグラフを書く際には、整数だけでなく、小数などを座標とする点まで扱ったり、二元一次方程式を等式変形することにより一次関数として捉えさせたりする活動の充実を図る。
- ・ 日常生活において起こる事柄について関数を当てはめて考察できるよう、事柄をグラフで表したり、グラフの傾きや切片の意味などをその事柄に戻して考えたりするなどの活動の充実を図る。その際、問題解決のために関数を活用する方法について、個人で考えさせるだけでなく、生徒同士で話し合う活動を取り入れることが大切である。

### 【その他】

- ・ 数学の時間に学習したことが実際の生活に生きて働くものとなるよう、日常的な事象との関連を図った数学的な活動や問題解決的な学習を行う。
- ・ 数学的な思考力・判断力・表現力を一層高めるために、生徒が説明したり、互いに自分の考えを伝え合ったりする学習活動を取り入れる。
- ・ より分かりやすい授業の実現に向けて、問題場面の理解を促すアニメーション機能や、図形の性質を分かりやすく提示するシミュレーション機能など、パソコンの持つ様々な機能を効果的に活用した指導を行う。

### 3 生徒質問紙調査

#### 【生徒質問紙調査】

※ 生徒質問紙調査の質問 77 問から、「学校教育スタンダード」及び「教科に関する調査結果」と関連の深いものを取り上げ、調査結果と傾向を示した。

#### ＜「学校教育スタンダード」との関連の深い質問＞

△は全国平均より低いもの

	主な質問と回答内容	本校	全国平均との差	昨年度との比較
1	「近所の人に出会ったときは、あいさつをしていますか」 ⇒「(どちらかといえば,) 当てはまる」	74.6%	△8.4	2.8
2	「学校の規則を守っていますか」 ⇒「(どちらかといえば,) 当てはまる」	84.9%	△3.8	6.5
3	「人が困っているときは、進んで助けていますか」 ⇒「(どちらかといえば,) 当てはまる」	71.4%	△0.8	6.2
4	「普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビやビデオ, DVDを見たり, 聞いたりしますか」 ⇒「2時間より少ない」	30.1%	△4.7	2.4
5	「朝食を毎日食べていますか」 ⇒「(どちらかといえば,) している」	90.6%	△1.8	△2.0
6	「学校の授業時間以外に, 普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 勉強していますか」 ⇒「2時間以上」	34.8%	△0.7	7.5
7	「家や図書館で, 普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 読書を読みますか」 ⇒「30分以上」	24.4%	△2.5	△5.1

#### ＜傾向＞

- ・ 「学校教育スタンダード」と関連の深い質問に対する肯定的回答の割合は、全国平均より低い。特に、近所の人へのあいさつは、全国平均より 8.4 ポイント低い。
- ・ 人が困っているときは助けることへの肯定的回答や、学校の授業時間以外に 2 時間以上勉強している割合は、全国平均よりやや低い。
- ・ 昨年度と比較すると、朝食を毎日食べている割合は、2.0 ポイント低いが、他の項目はすべて肯定的回答が高くなっている。

#### ＜正答率と関連の深い質問＞

△は全国平均・昨年度より低いもの

	主な質問と回答内容	本校	全国平均との差	昨年度との比較
1	家で学校の宿題をしていますか ⇒「(どちらかといえば,) している」	84.5%	1.6	2.6
2	読書は好きですか ⇒「(どちらかといえば,) 当てはまる」	70.9%	3.5	2.2
3	携帯電話の使い方について, 家の人と約束したことを守っていますか ⇒「(だいたい) 守っている」	50.7%	14.2	
4 (再)	朝食を毎日食べていますか ⇒「(どちらかといえば,) している」	90.6%	△1.8	△2.0
5	家の人と学校での出来事について話をしていますか ⇒「(どちらかといえば,) している」	63.9%	4.1	6.1

#### ＜傾向＞

- ・ 正答率と関連の深い質問における肯定的な回答の割合は、全校平均及び昨年度と比べ、朝食を毎日食べているかの質問を除き、高くなっている。特に、携帯電話の使い方について、家の人との約束を守る生徒の割合は高い。